



## 用語解説

### ○収益的収支

年度内に発生すると見込まれる全ての収益とそれに対応する全ての費用のこと。

### ○資本的収支

施設の整備や企業債の償還元金などの支出、これに要する資金としての企業債収入のこと。

### ○損益計算書

企業の経営成績を明らかにするため、一会計期間に属する全ての収益とこれに対応する全ての費用を記載し、純利益を表示したものの。

### ○貸借対照表

企業の財政状態を明らかにするため、保有する全ての資産、負債、資本を表示したものの。

### ○内部留保資金

減価償却費など、実際にお金の支出がない費用計上によって生じた資金のこと。

## 水道事業の現状

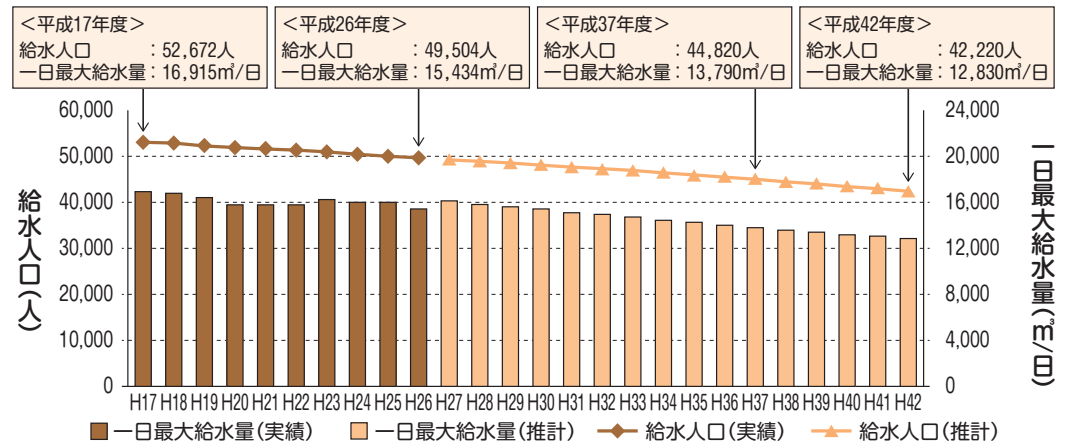
### 水需要の動向

平成17年度の給水人口は、5万2,672人でしたが、徐々に減少し、平成26年度には4万9,504人まで減少しています。

この人口減少は、平成27年度以降も続き、平成37年度には4万4,820人となる見通しです。

また、一日最大給水量も、給水人口の減少に伴い、グラフ①のとおり減少傾向を示す見通しとなります。

グラフ① 一日最大給水量・給水人口



出典：登別市水道事業ビジョン資料より

### 水道施設

登別温泉浄水場、幌別浄水場ともに建設後50年以上が経過しているため、老朽化が著しく、平成27年度に実施した水道施設耐震1次診断の結果、大規模な地震において被害の可能性が高い施設となっていることから、安定給水を行うためには、早急に施設更新を行う必要があります。

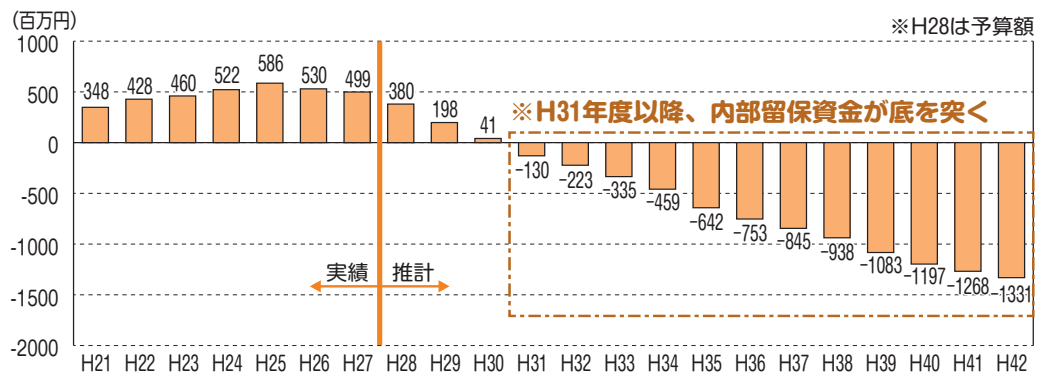
また、配水池や管路についてもすでに耐用年数を超えている施設があり、今後も増加することから、更新需要が高くなる見込みですが、緊急度や優先度を考慮しつつ、事業費の平準化を図りながら、施設更新を行う必要があります。

### 水道経営

現在の経営状況において、給水人口の減少により料金収入が減少する見込みのなか、必要な施設整備などを進めると赤字経営になり、グラフ②のとおり内部留保資金が底を突く見通しとなります。

この対策として、企業債借入額や施設整備費用の抑制、また、水道料金の見直しなどの検討を進めています。

グラフ② 内部留保資金



問い合わせ  
水道グループ  
(☎05) 5501)